



2023 年度 看護研究発表会 活動報告

ポスターセッションで行う看護研究発表は、今年度で 3 回目の実施となりました。各部署で決めたテーマを元に看護成果をポスターにまとめ、発表会を行いました。作成したポスターは、それぞれに個性があり、看護研究の成果をアピールするための工夫がされていました。また、発表後はディスカッションや質疑応答が活発に行われ、充実した看護研究発表の場となりました。



発表内容

- ・PNS におけるコミュニケーションによる情報共有の実態
- ・胃管チューブの固定による褥瘡発生要因に対する新たな固定方法の検討
- ・心不全患者の再入院を予防するための退院指導
- ・器械出し看護師の手荒れ対策
- ・過去データから読みとれる予約入院患者の傾向と課題 他

回復期リハビリテーション病棟に包括的 BPSD ケアシステを導入して
—統一した認知症ケアを目指して—

回復期病棟に入院している認知症患者

➡

ケアが統一されていないことで不穏が悪化?

➡

統一したケアを提供するために「包括的BPSDケアシステを導入

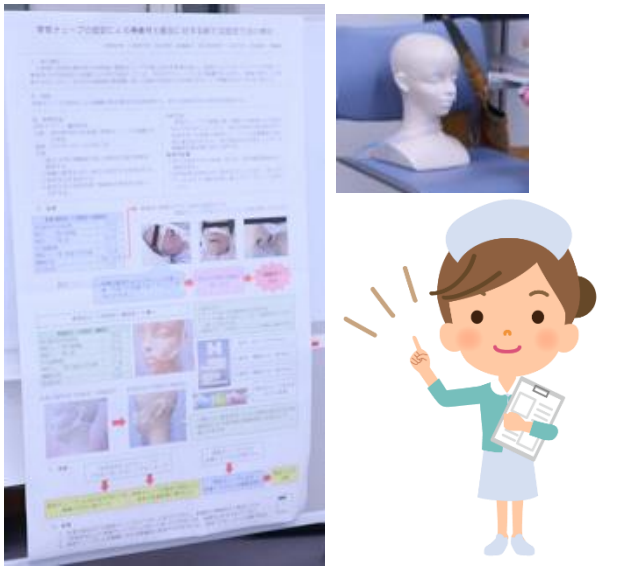
- ・システム介入前後の BPSD25Q の点数は全ての患者が改善
- ・システムの評価もすべての数値が改善
- ・BPSD25Q の重症度得点の変化を対応のある t 検定を用いて比較検討し平均値 15.3 点から 7.1 点と有意に改善 (p=0.0028)

↓

- ・知識による対応の差が改善⇒質の向上、病棟全体の統一
- ・安心させる声掛け、スキンシップ等の関り⇒個性のある対応によって BPSD が改善

↓

- ・統一した認知症ケアが行えていると思う割合はシステム介入前後で大きな変化はなかったが、システムに記載されている BPSD を改善させるケアはスタッフによって日常的に行われている現状が明らかになった。
- ・システムを用いることで統一したケアが行われ、患者の BPSD が有意に改善した。



【感想】
 今後の看護に活用できそうな内容で、役立てられそう。
 それぞれのポスターに個性があって、配色などの工夫があった。
 ディスカッションが有意義だった。

